

工場見学実施レポート

【参加グループ名 コープおきなわ・NACS 沖縄他】

【報告者名 林 真実】

【代表者連絡先 (公社)消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会】

【見学工場 オリオンビール株式会社 名護工場】

【見学日時 2016年12月5日9:30~16:00】【参加人数 28名】

★見学の内容

■瓶・缶ビールの製造工程（原料・仕込みから発酵・貯酒・封入・出荷・容器リサイクル）における品質保持や安全安心の確保。

■説明の内容は、①当該会社の歴史と概要②お客様との対話（「グッドマンの法則」、同社の「三直三現主義」など）③高品質のビールを造るための異物混入対策（24時間365日の安全安心対策）④ビールの取り扱い方法（SNS時代の消費者対応の姿勢、ビールの扱い方など）充実した内容でした。

■質疑応答では、HACCP視点から見学コースの見どころ、HACCPへの取り組みの状況などの質問について、ご回答頂きました。

■バス車中から専門家の先生に質問に答えていただき、それに続く工場での講話でも、非常にわかりやすいHACCPの解説があり、概要がよく理解できました。帰りのバスでも、HACCP導入の現状と課題、消費者としての関わり方についてなど、有意義な意見交換ができました。

■HACCPのしくみを学ぶことができました。同時に、普及に関して消費者視点からわかる範囲では、コスト面での課題も大きいように感じられました。
自治体が積極的に関わるなどにより、コスト減、地元製品のブランド向上の可能性も感じました。

■また、消費者がHACCPの意義を認識したとしても表示がなければわからないため、今後飲食店などにもHACCPを推進していく方針なのであれば、消費者に一目でアピールできる表示の検討と普及啓発が必要と思われました。

★参加者からの質問、関心事

■HACCPをとるための経費は？続けるための経費は？

■事業者がHACCPを導入していることを、消費者にはどうやって知ることができるのか？

回答：特に決まった表示はないが、HPなどに書いているところもある。

■廃棄処分されたはずの加工食品が市場に出回っていた事件があったが、このようなことはHACCPで防げるのか？

回答：HACCPのみではできない。HACCPを組み込んだマネジメントシステムなら可能ではないか。

★その他 特に良かったこと

■参加者の方々の積極的な態度。バスの中でもメモをとる、積極的に質問をするなど、熱心に参加していただきました。

■専門家、センターの方々、参加者、コーディネーター全員で、双方向で活
発なコミュニケーションが取れたこと。

★びっくりしたこと

■なんといってもビール製造のスピード。ロボットの手際の良さに一同感心
していました。

■地元で親しまれているオリオンビール様の工場はふさわしかったと思いま
すし、多くの意見交換ができました。参加者の満足度も非常に高かったよう
で、貴重な学習の機会を頂いたと思います。

報告ありがとうございました。